

伊豆諸島利島から新たに記録されるゾウムシ上科甲虫

小島弘昭・張 辰南

〒 243-0034 厚木市船子 1737 東京農業大学昆虫学研究室

Weevils new to the fauna of Toshima Island, the Izu Islands, Japan

Hiroaki KOJIMA and Chennan ZHANG

Summary: Twenty-two species of weevils (Coleoptera: Curculionoidea) enumerated in the following list are newly recorded from Toshima Is., the Izu Islands, Tokyo. Among them, *Orchestes sanguinipes* Roelofs, 1874 is newly recorded from the Izu Islands. Accordingly, a total of 38 species of weevils excluding Scolytidae and Platypodidae are recognized from Toshima Is.

利島は伊豆諸島北部に位置し、面積が 4.12 km² と有人の同諸島中では 2 番目に小さい島である。海岸に砂浜はなく、断崖絶壁に囲まれ、標高 508 m の宮塚山を頂とする円錐形の地形を呈する。島の大半がツバキ林で覆われるが、宮塚山山頂付近には、スダジイの巨木が混じる森林が残されている。

同島のゾウムシ上科甲虫は、ヒゲナガゾウムシ科、およびキクイムシ科、ナガキクイムシ科を除き、Morimoto & Miyakawa (1985) によって報告され、1 科 (ゾウムシ科) 16 種が記録されている。

著者らは 2012 年 9 月 11 日~13 日にかけて同島を訪問し、ゾウムシ相の調査を行い、伊豆諸島新記録種を含む、利島新記録種を採集したので報告する。なお、採集者名は記録中で以下のように略記し、標本は東京農業大学昆虫学研究室で保管する：張辰南 (CZ)、藤田宏 (HF)、小島弘昭 (HK)。

報告に先立ち、貴重な標本をご提供頂いた藤田宏氏に厚く御礼申し上げる。なお、本研究は科研費 (24510333) の助成を受けて行われた。

ヒゲナガゾウムシ科 Anthribidae

1. イトヒゲナガゾウムシ *Exillis japonicola* Nakane, 1963

12 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまでに三宅島、御蔵島、八丈島から記録があった (妹尾, 1987)。

2. クロホシメナガヒゲナガゾウムシ *Phaulimia aberrans* (Sharp, 1891)

1 ex., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまでに新島と式根島から記録があった (Morimoto, 1981)。

3. ササセマルヒゲナガゾウムシ *Phloeobius stenus* Jordan, 1923

1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまで神津島、御蔵島、八丈島から記録があった (妹尾, 1987)。

ホソクチゾウムシ科 Apionidae

4. アカクチホソクチゾウムシ *Microconapion pallidirostre* (Roelofs, 1874)

1 ex., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK; 1 ex., 堂山神社, 12-IX-2012, HK; 1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまで大島、新島、神津島、三宅島から記録があった。

ゾウムシ科 Curculionidae

5. カシワクチプトゾウムシ *Nothomylloceris griseus* (Roelofs, 1873)

26 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK; 1 ex., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまで三宅島と御蔵島のみから知られていた。

6. クリイロクチプトゾウムシ *Cyrtapistomus castaneus* (Roelofs, 1873)

3 exs., 宮塚山, 12-IX-2012, HK.

伊豆諸島ではこれまで御蔵島のみから知られていた。

7. ケブカヒメカタゾウムシ *Arrhapogaster pilosa* Roelofs, 1873

2 exs., 利島, 5-6-VI-2011, HF.

伊豆諸島ではこれまで大島のみから知られていた。

8. ヒメシロコブゾウムシ *Dermatoxenus caesicollis* (Gyllenhal, 1833)
10 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK; 2 exs., 11-IX-2012, CZ.
伊豆諸島ではこれまで新島で1頭の記録があるのみだった。上記個体はすべてウコギ科のカクレミノ *Dendropanax trifidus* から得られた。
9. カツオゾウムシ *Lixus impressiventris* Roelofs, 1873
1 ex., 浜の宮神社, 13-IX-2012, CZ.
伊豆諸島ではこれまで神津島のみから知られていた。
10. アカアシノミゾウムシ *Orchestes sanguinipes* Roelofs, 1874
1 ex., 堂山神社, 12-IX-2012, HK; 1 ex., 利島村, 12-IX-2012, HK.
村落内でケヤキを見かけたので、時期になれば多数得られる可能性がある。伊豆諸島新記録。
11. シイシギゾウムシ *Curculio hilgendorfi* (Harold, 1878)
1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, HK; 1 ex., 堂山神社, 12-IX-2012, CZ.
伊豆諸島では八丈島と神津島から記録されている(小島, 2011)。
12. アトジロカレキゾウムシ *Acicnemis dorsonigrita* Voss, 1941
1 ex., 宮塚山, 11-IX-2012, CZ.
伊豆諸島ではこれまで新島と式根島から記録があった。
13. シラケツチイロゾウムシ *Cotasteromimus squamiger* Morimoto & Miyakawa, 1985
2 exs., 宮塚山, 12-IX-2012, HK; 1 ex., CZ.
伊豆諸島ではこれまで新島, 神津島, 三宅島, 御蔵島から記録があった。
14. コササラクチカクシゾムシ *Colobodellus postfasciatus* Morimoto & Miyakawa, 1985
12 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK.
伊豆諸島ではこれまで三宅島以南に分布することが知られていたが、今回、同諸島内北部の利島でも見つかった。
15. ワモントゲトゲゾウムシ *Colobodes ornatus* Roelofs, 1875
1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, HK.
伊豆諸島ではこれまで大島, 御蔵島, 八丈島から記録があった。
16. ダルマクチカクシゾウムシ *Darumazo distinctus* Morimoto & Miyakawa, 1985
1 ex., 堂山神社, 12-IX-2012, HK.
伊豆諸島ではこれまで大島, 式根島, 三宅島以南青ヶ島まで記録があった。
17. ムナビロマルクチカクシゾウムシ *Orochlesis amplicollis* Morimoto & Miyakawa, 1985
30 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK & CZ; 13 exs., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK; 4 exs., 堂山神社, 11-IX-2012, HK & CZ; 2 exs., 利島村, 12-IX-2012, HK.
18. ヒメクチカクシゾウムシ *Syrotelus umbrosus* (Roelofs, 1875)
1 ex., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK; 1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, HK; 1 ex., CZ.
大島から八丈島まで広く分布し、利島が分布空白域となっていた。
19. ケシクチカクシゾウムシ *Microcryptorhynchus nipponicus* Morimoto & Miyakawa, 1985
2 exs., 堂山神社, 12-IX-2012, HK.
伊豆諸島に広く分布し、利島が分布空白域となっていた。
20. チビクチカクシゾウムシ *Deiradocranus setosus* (Morimoto, 1962)
7 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK.
伊豆諸島では三宅島以南に分布することが知られていたが、今回、同諸島内北部の利島でも見つかった。
21. クチミゾケバキクイゾウムシ *Himatium ichihashii* (Konishi, 1962)
6 exs., 宮塚山, 11~12-IX-2012, HK; 1 ex., 12-IX-2012, CZ; 2 exs., 堂山神社, 12-IX-2012, HK; 2 exs., うすい郷~堂山神社, 11-IX-2012, HK.
伊豆諸島ではこれまで三宅島, 御蔵島, 青ヶ島から記録があり、最近、小島・藤澤(2011)が大島から記録した。
22. ワシバナヒメキクイゾウムシ *Phloeophagosoma*

curvirostre Wollaston, 1873

1 ex., 宮塚山, 12-IX-2012, CZ.

伊豆諸島ではこれまで三宅島, 八丈島, 青ヶ島から記録があり, 最近, 小島・藤澤 (2011) が大島から記録した。

考察

利島は Morimoto & Miyakawa (1985) の報告の中で, 伊豆諸島中もっともゾウムシ上科の記録が少ない島であったが, 今回の調査により同島のゾウムシ相は 1 科 16 種から 3 科 38 種と倍以上に増加した。同報告中で示されている種数面積曲線においても利島は回帰線よりかなり下方にずれていたが, 今回の調査結果を当てはめると回帰線の傾きが修正されるか, 利島が回帰線より上方に位置する可能性が高く, 利島におけるゾウムシ類の種多様性がこれまで考えられていた以上に高い可能性

が示唆された。

今回の調査時期とは異なる春から夏期にかけ集中的な調査を行うことで, さらなる種数の増加が見込まれると考えている。

引用文献

- 小島弘昭・藤澤侑典, 2011. 伊豆大島から新たに記録されるゾウムシ上科甲虫. さやばねニューシリーズ (4): 9-11.
 小島弘昭, 2011. 伊豆諸島神津島から新たに記録されるゾウムシ上科甲虫. さやばねニューシリーズ (4): 20-21.
 Morimoto, K., 1981. The family Anthribidae of Japan (Coleoptera). Part 4. Esakia, Fukuoka, (17): 53-107.
 Morimoto, K. & S. Miyakawa, 1985. Weevil fauna of Izu Islands, Japan (Coleoptera). Mushi, Fukuoka, 50 (3): 19-85.
 妹尾俊男, 1987. 東京都に生息するヒゲナガゾウムシ科甲虫類について (I). 教育・研究, 中央大学付属高等学校, (1): 67-84.

(2012年11月30日受領, 2012年12月10日受理)

【短報】フタホシカギアシゾウムシの関連植物

カギアシゾウムシ属 *Bagous* は日本から 21 種が知られる水生・半水生ゾウムシの一群である (O'Brien *et al.*, 1994, 1995). いずれの種も湿性または水生植物に依存していると予想されるが, 実際に国内で寄主植物が確認されている例としては, バッキンガムカギアシゾウムシ *Bagous buckinghami* O'Brien *et Morimoto*, 1994 (寄主: ミツガシワ科のガガブタ *Nymphoides indica* (L.) Kuntze) とヤヤコブカギアシゾウムシ *Bagous spiculatus* O'Brien *et Morimoto*, 1994 (寄主: トチカガミ科のトチカガミ *Hydrocharis dubia* (Blume) Backer), リュウキュウカギアシゾウムシ *Bagous ryukyuensis* O'Brien *et Morimoto*, 1994 (寄主: オモダカ科のオモダカ *Sagittaria trifolia* L.) が報告されているだけである (吉武, 2009; Yoshitake, 2010; Yoshitake & Yoshida, 2011). 筆者は島根県内のため池において, フタホシカギアシゾウムシ *Bagous kagiashi* Chûjô *et Morimoto*, 1959 の生息地を発見し, 生態について若干の知見を得ているので報告する。

2012年8月31日, 島根県雲南市大東町の沢池 (通称, うしおの沢池: 図1) において, ブラックバス駆除後の生物調査を行うため水生昆虫などを採集している時に, 小型のゾウムシが複数水面付近に浮いていることに気づいた。体に泥が付着していたこと, 水中で泳ぐことから, イネミズゾウムシだと思い込み, 採集してそのまま帰ってしまった。持ち帰った標本を同定する時になり, カギアシゾウムシ属であることにやっと気づいた。

翌9月1日, 再度, 沢池を訪れてゾウムシを改めて観察することにした。池は夏の渇水によって通常時の岸辺はすべて干上がっており, 泥が露出していた。水辺の浅瀬にホッスモ *Najas graminea* Delile (トチカガミ科) とホソバミズヒキモ *Potamogeton octandrus* Poir. var. *octandrus* (ヒルムシロ科) などが密生して生えており (図2), 水草の群落を調べてみると, ゾウムシが浮いてきた。カギアシゾウムシ属で知られる「犬かき」で水中を遊泳する様子が観察できた。ほとんどの成虫は体に泥が付着しており, 体の表面がきれいな状態の個体はわずかだった。浮いてきたゾウムシは水草につかまった (図3)。

生かしたまま持ち帰り, 円筒形の透明容器 (容量1リットル) に水草と池の水, 上陸用のアミ (プラスチック製) を入れて約20個体の成虫を1ヶ月間飼育した (人工気象機で気温24°C, 長日に設定)。最初の数日は水面上でアミに登る個体が多かったが, やがて水中に潜る個体の方が多くなり, 水中での交尾も確認された。成虫は水中でホッスモの茎を食害した (図4)。産卵を期待したが, 水草が枯れたり, 紛れ込んでいたミズメイガの一種の幼虫にホッスモを食べられたりして確認できなかった。この1ヶ月間で死亡した成虫は2頭だけだった。

幼虫の食草が確認できなかったため, ホッスモが寄主植物であるとの断定はできなかった。しかし, 日本産の種にも沈水植物を食べ, 潜水できる種がいることが判明したことは, 日本産カギアシゾウムシ属の生態や寄主植物を解明する上でヒント